

青森県経済統計報告

平成19年2月5日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成19年1月1日現在）…………… 1

県人口	1,421,519人（対前月 640人 減少）
自然動態	503人減少（出生者数 786人、死亡者数 1,289人）
社会動態	137人減少（転入者数 1,212人、転出者数 1,349人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済は、消費面の一部に弱さが残るものの、生産面を中心に改善の動きがみられる。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成18年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が95.9で、前月比0.2%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は99.7で、前年同月比0.6%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成18年11月の定期給与は230,178円で前年同月比1.7%減となった。総実労働時間は162.2時間で前年同月比0.4%増、所定外労働時間は9.6時間で前年同月と同水準となった。平成18年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.46倍で、前月と同水準となった。 … 3
- (2-3) 物価 平成18年12月の青森市消費者物価指数は、平成17年を100として99.9となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成18年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが139億8千4百万円で前年同月比3.5%減と3ヶ月連続で減少、既存店ベースでは3.1%減と12ヶ月連続で減少となった。平成18年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,425台で、前年同月比1.0%の増となり、2ヶ月連続で前年を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成18年12月の新設住宅着工戸数は561戸で、前年同月比9.5%減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。 … 6
- (2-6) 企業倒産 平成18年12月の企業倒産件数は5件で、6ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 6

（3）景気動向指数（平成18年11月分）…………… 7

先行指数	55.6%（2か月連続で50%を上回った）
一致指数	44.4%（3か月ぶりに50%を下回った）
遅行指数	50.0%（3か月連続で50%となった）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成19年1月期）…………… 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	46.0（前期比0.3ポイント増、23期連続50を下回る）
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	50.3（前期比3.6ポイント増、3期ぶりに50を上回る）

1 青森県の推計人口(平成19年1月1日現在)

【概況】

平成19年1月1日現在の本県推計人口は、1,421,519人で、前月に比べ640人の減少となった。

○自然動態

出生者数が786人、死亡者数が1,289人で、503人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,212人、転出者数が1,349人で、137人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
18.1.1	1,434,936	678,117	756,819	-0.050%	-718	-418	790	1,208	-300	1,184	1,484
18.2.1	1,433,691	677,440	756,251	-0.087%	-1,245	-685	851	1,536	-560	1,119	1,679
18.3.1	1,432,695	696,915	755,780	-0.069%	-996	-470	754	1,224	-526	1,217	1,743
18.4.1	1,426,703	673,671	753,032	-0.418%	-5,992	-393	925	1,318	-5,599	4,191	9,790
18.5.1	1,425,934	673,296	752,638	-0.054%	-769	-356	818	1,174	-413	4,422	4,835
18.6.1	1,425,271	672,856	752,415	-0.046%	-663	-271	984	1,255	-392	1,643	2,035
18.7.1	1,424,530	672,338	752,192	-0.052%	-741	-279	910	1,189	-462	1,345	1,807
18.8.1	1,424,090	672,039	752,051	-0.031%	-440	-217	914	1,131	-223	1,930	2,153
18.9.1	1,423,840	671,898	751,942	-0.018%	-250	-239	923	1,162	-11	2,171	2,182
18.10.1	1,423,412	671,651	751,761	-0.030%	-428	-146	940	1,086	-282	1,590	1,872
18.11.1	1,422,852	671,368	751,484	-0.039%	-560	-259	946	1,205	-301	1,737	2,038
18.12.1	1,422,159	671,025	751,134	-0.049%	-693	-375	860	1,235	-318	1,201	1,519
19.1.1	1,421,519	670,706	750,813	-0.045%	-640	-503	786	1,289	-137	1,212	1,349

12月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平9.12	10.12	11.12	12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12	18.12
自然動態	出生者数	1,060	1,053	1,000	1,015	976	898	896	879	790	786
	死亡者数	994	1,048	1,089	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222	1,208	1,289
	自然増減数	66	5	-89	-50	-216	-264	-248	-343	-418	-503
社会動態	県外からの転入者数	1,445	1,554	1,309	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275	1,184	1,212
	県外への転出者数	1,272	1,495	1,261	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419	1,484	1,349
	社会増減数	173	59	48	48	127	-242	-167	-144	-300	-137

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。

※2 平成18年1月以降の人口は平成17年国勢調査人口を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

※5 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

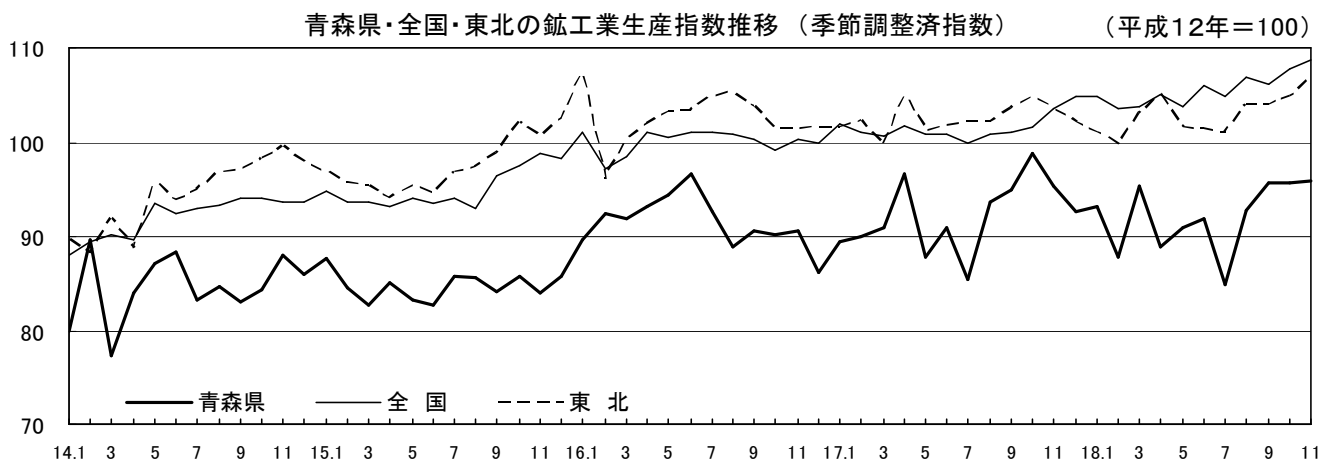
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

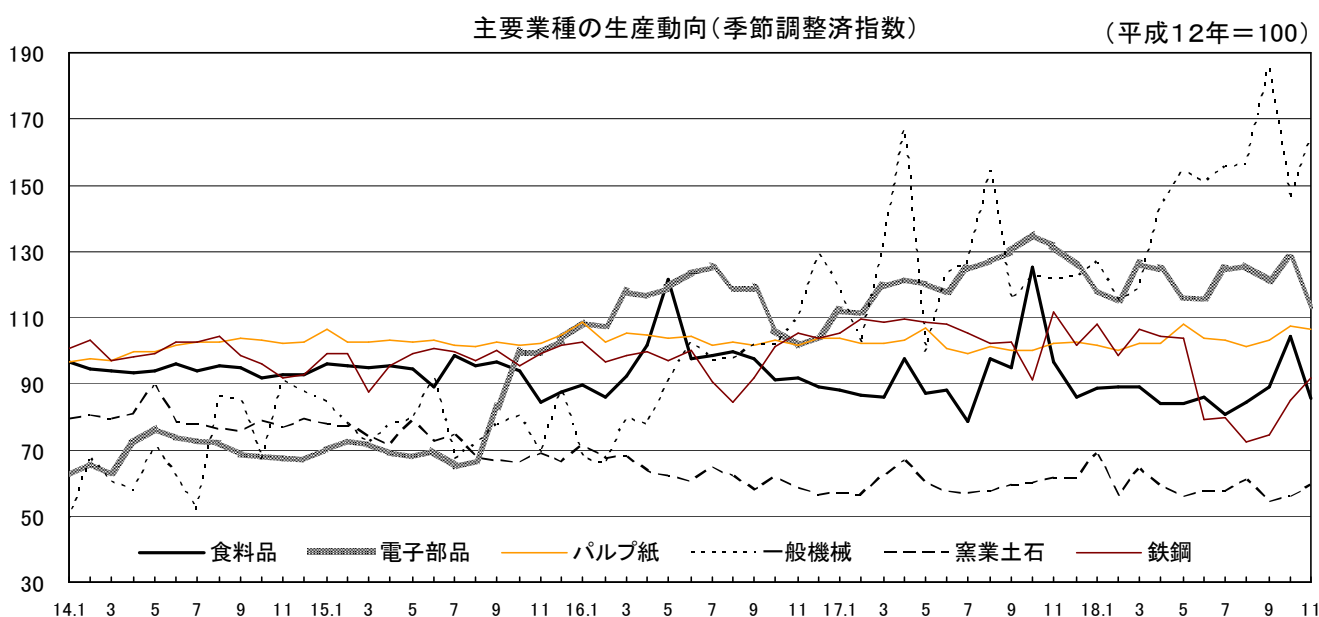
平成18年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が95.9で、前月比0.2%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は99.7で、前年同月比0.6%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電気機械工業、一般機械工業、輸送機械工業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、化学工業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では0.2%の上昇となった。



◎業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 +0.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電気機械工業	50.0	91.7	食料品工業	-18.1	-134.4
一般機械工業	13.3	31.8	化学工業	-28.4	-63.3
輸送機械工業	64.9	12.6	電子部品・デバイス工業	-11.3	-46.8
精密機械工業	15.7	10.4	金属製品工業	-19.8	-21.2
鉄鋼業	8.0	9.8	プラスチック製品工業	-5.9	-2.6



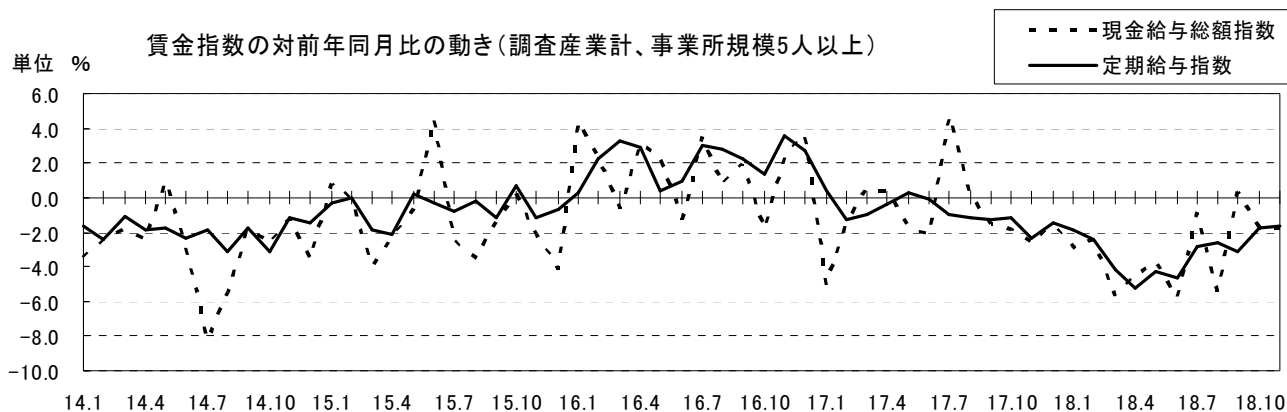
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成18年11月の定期給与は230,178円で定期給与指数(平成12年=100)では97.0となり、前年同月比1.7%減(現金給与総額233,886円、現金給与総額指数81.1、前年同月比1.8%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.4となった。

所定外労働時間は9.6時間で、所定外労働時間指数では111.6となり、前年同月と同水準となった。

平成18年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.46倍で、前月と同水準となった。



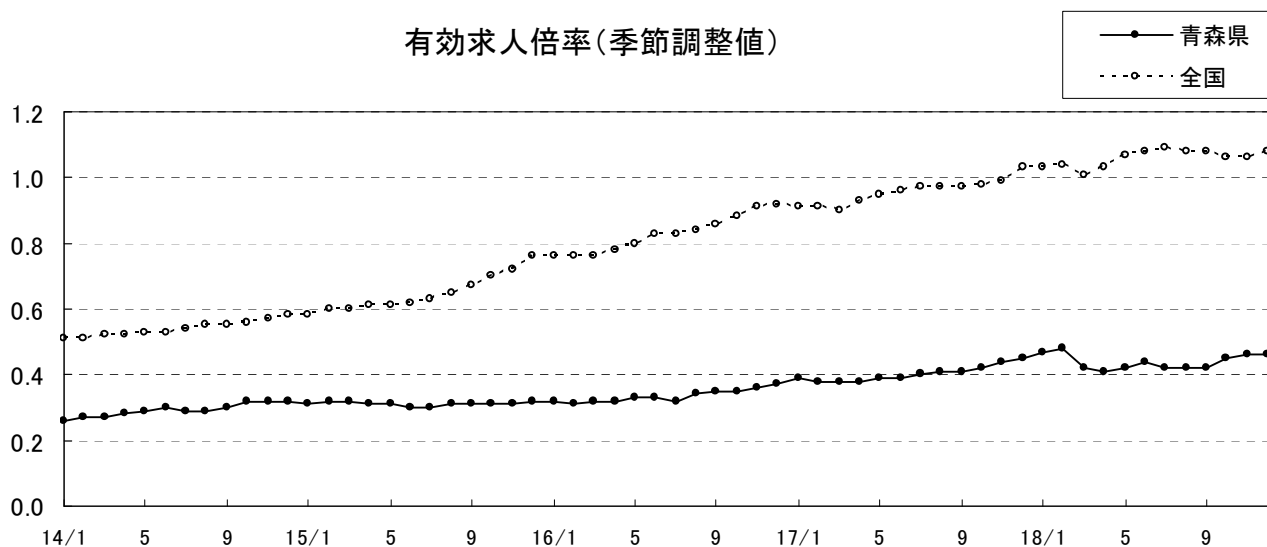
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	233,886 円	292,867 円	81.1	82.9	-1.8 %	0.2 %
定期給与	230,178 円	272,880 円	97.0	96.8	-1.7 %	-0.5 %
特別給与	3,708 円	19,987 円	—	—	—	—
総実労働時間	162.2 時間	153.2 時間	102.4	99.5	0.4 %	0.2 %
所定内労働時間	152.6 時間	142.1 時間	101.8	98.6	0.5 %	0.0 %
所定外労働時間	9.6 時間	11.1 時間	111.6	113.3	0.0 %	3.8 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成18年12月の青森市消費者物価指数（平成17年=100）は、総合指数が99.9となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。

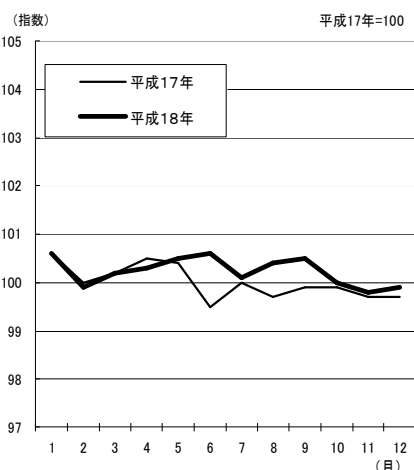
生鮮食品を除く総合指数は99.9となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.1%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は98.8となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

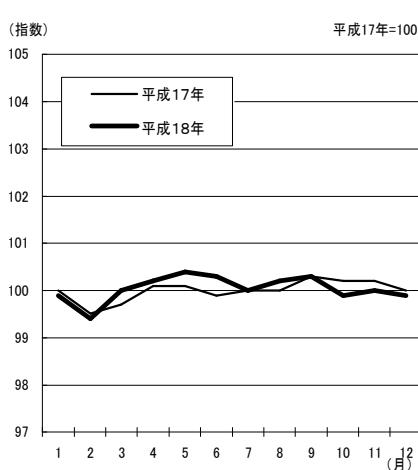
総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数の前年同月比が0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

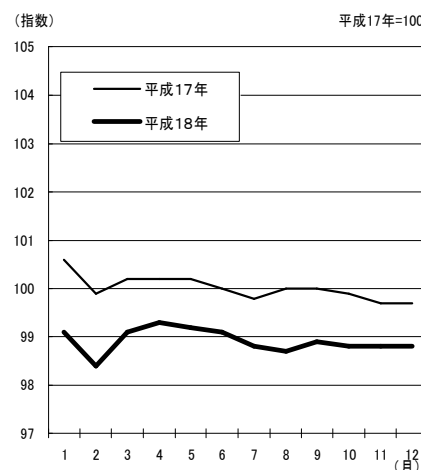
総合指数の動き



生鮮食品を除く総合指数の動き



食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被及履	服び物	保医	健康	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	99.9	99.9	100.2	98.8	99.1	100.1	98.7	107.8	92.9	101.6	100.0	99.8	100.6	98.2	100.4			
前月比 (%)	0.1	▲ 0.1	0.2	0.0	0.7	4.2	0.0	0.9	▲ 0.9	0.0	▲ 0.4	▲ 0.9	0.0	0.4	▲ 0.2			
寄与度	0.10	▲ 0.09	0.17	0.00	0.20	0.23	0.00	0.10	▲ 0.02	0.00	▲ 0.02	▲ 0.10	0.00	0.04	▲ 0.01			
前年同月比 (%)	0.2	▲ 0.1	0.5	▲ 0.9	0.6	4.7	▲ 1.4	4.3	▲ 3.2	▲ 0.7	▲ 0.1	0.8	0.4	▲ 1.2	0.6			
寄与度	0.20	▲ 0.09	0.42	▲ 0.57	0.17	0.26	▲ 0.29	0.44	▲ 0.10	▲ 0.03	▲ 0.00	0.09	0.01	▲ 0.12	0.03			

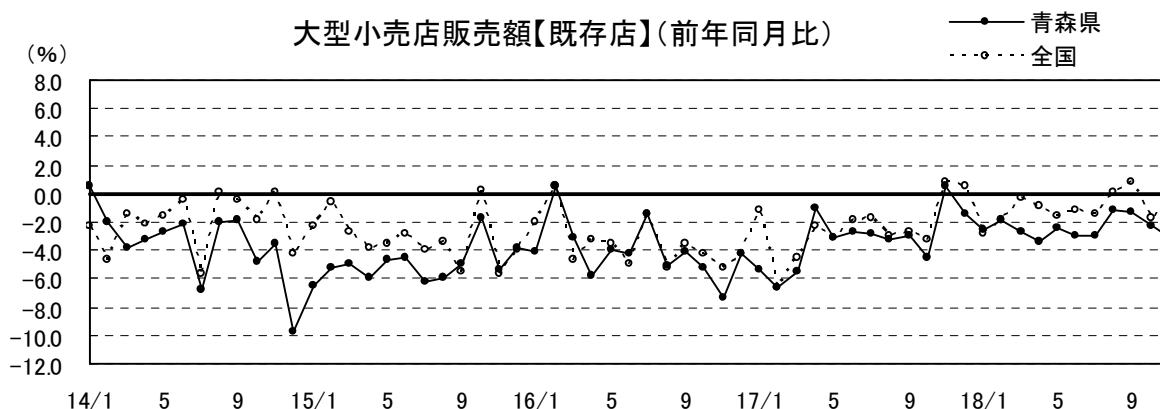
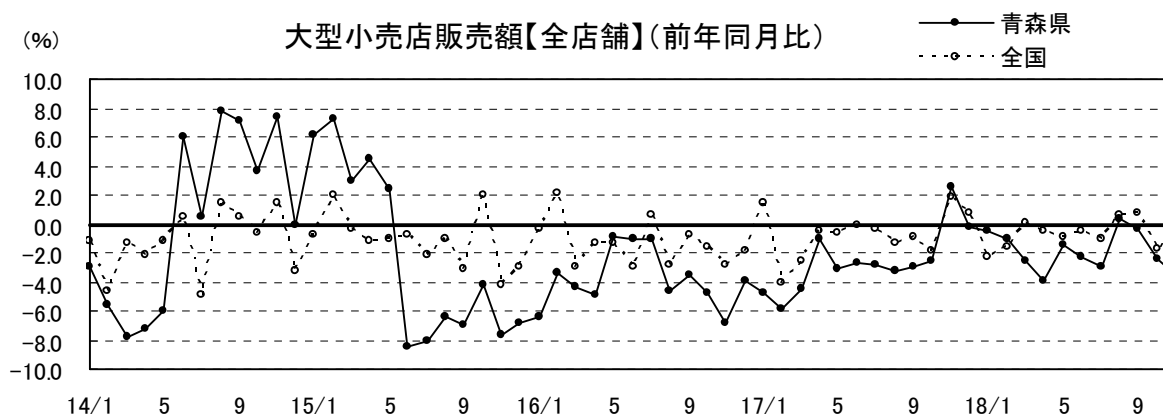
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」（速報）

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

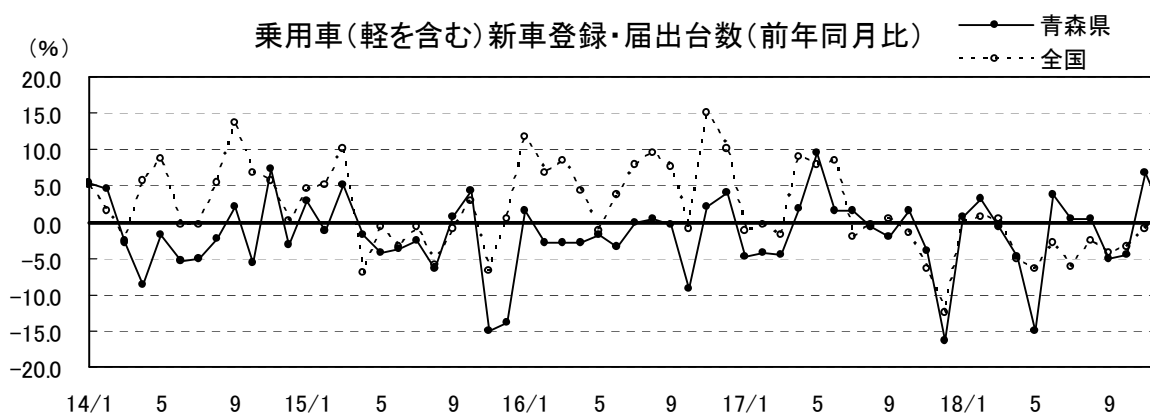
平成18年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが139億8千4百万円で前年同月比3.5%減と3ヶ月連続で減少、既存店ベースでは3.1%減と12ヶ月連続で減少となった。百貨店は、気温が高めに推移したため秋冬物衣料が伸び悩んだことなどから、2ヶ月連続で前年を下回った。スーパーは主力の飲食料品が低調だったことなどから、12ヶ月連続で前年を下回った。

平成18年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,425台で、前年同月比1.0%の増となり、2ヶ月連続で前年を上回った。小型車、普通車が減少したものの、軽自動車が7ヶ月連続でプラスとなったことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

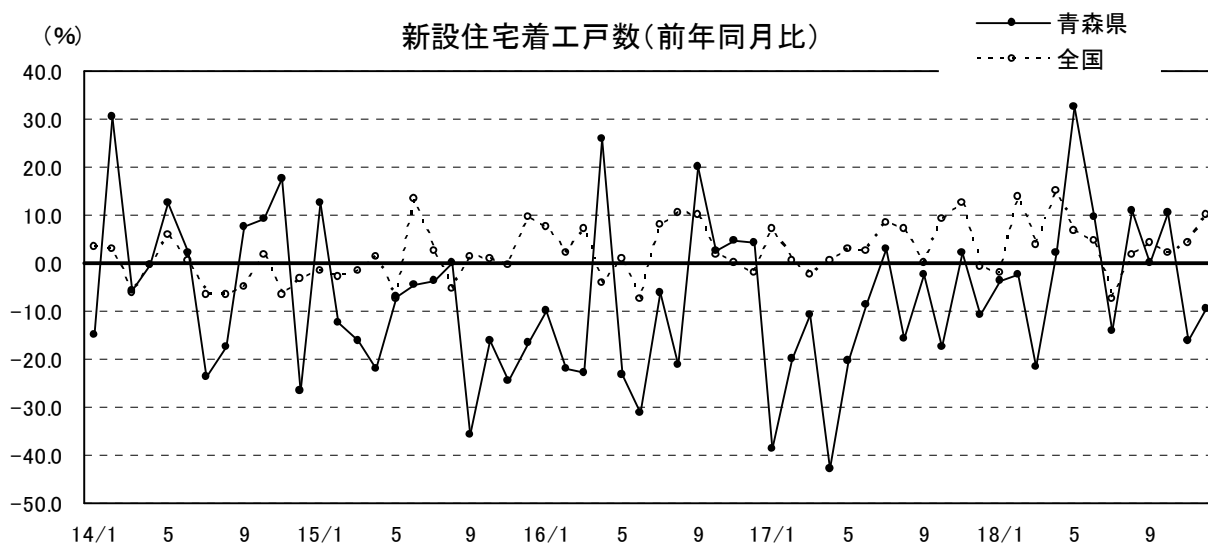
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

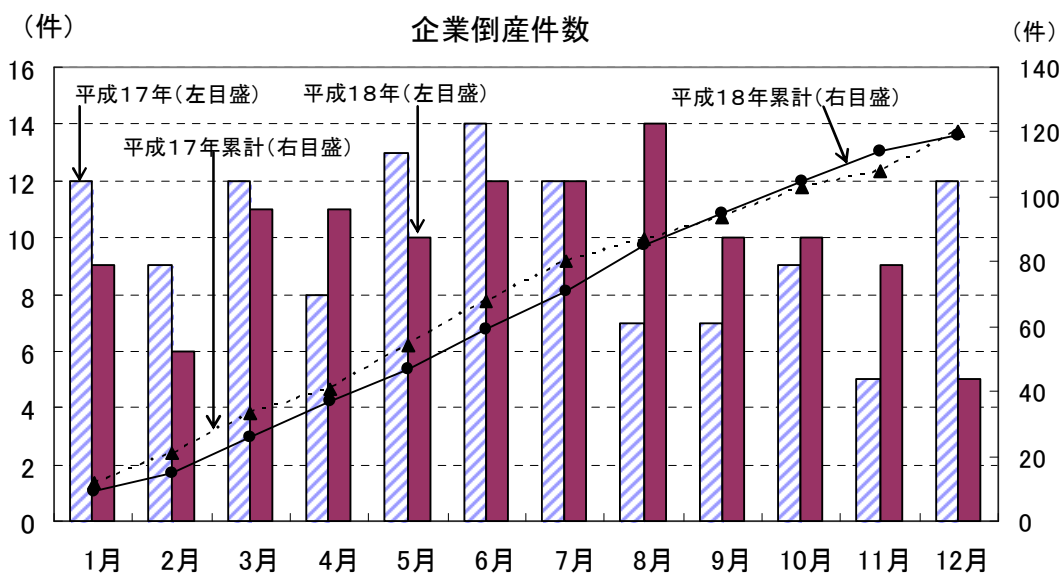
平成18年12月の新設住宅着工戸数は561戸で、前年同月比9.5%減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。分譲が増加したものの、持家と貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 企業倒産

平成18年12月の企業倒産件数は5件で、6ヶ月ぶりに前年を下回った。



資料：(株)東京商工リサーチ青森支店・八戸支店（負債総額 1,000 万円以上）

(3) 青森県景気動向指数

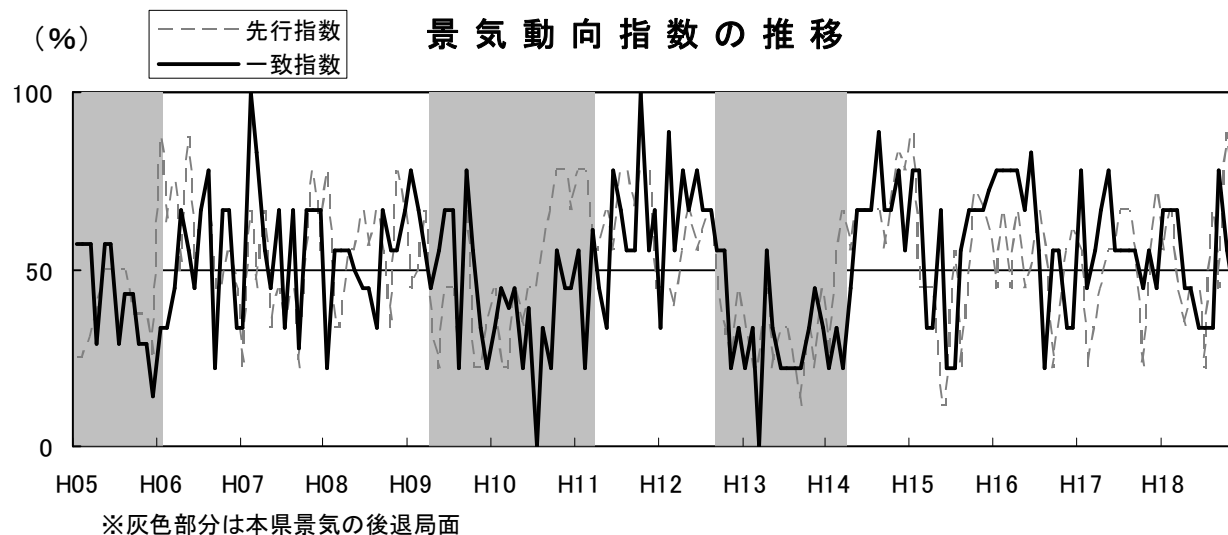
平成18年11月の青森県景気動向指数は、先行指数55.6%、一致指数44.4%、遅行指数50.0%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を上回った。

一致指数は、3か月ぶりに50%を下回った。

遅行指数は、3か月連続で50%となった。

11月の一致指数は、消費および雇用関連指標等がマイナスとなったことから、50%を下回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中5指標がプラス）			
生産財生産指数	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	2か月ぶり
所定外労働時間指数（全産業）	5か月連続	新規求人倍率（全数）	2か月ぶり
建築着工床面積	4か月連続	入職率（製造業）	4か月ぶり
企業倒産負債額	2か月連続	新設住宅着工床面積	3か月連続
中小企業景況D I	5か月連続		
一致系列（9指標中4指標がプラス）			
鉱工業生産指数	3か月連続	大型小売店販売額（既存店）	4か月ぶり
電気機械生産指数	2か月ぶり	総実労働時間数（全産業）	3か月ぶり
大口電力使用量	6か月ぶり	海上出入貨物量（八戸港）	2か月ぶり
有効求人数（全数）	3か月連続	東北自動車道IC利用台数	2か月連続
		日銀券月中発行高	2か月連続
遅行系列（6指標中3指標がプラス）			
1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり	勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月ぶり
単位労働コスト（製造業）	2か月連続	常用雇用指数（製造業）	2か月連続
輸入通関実績（八戸港）	4か月ぶり	青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	9か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

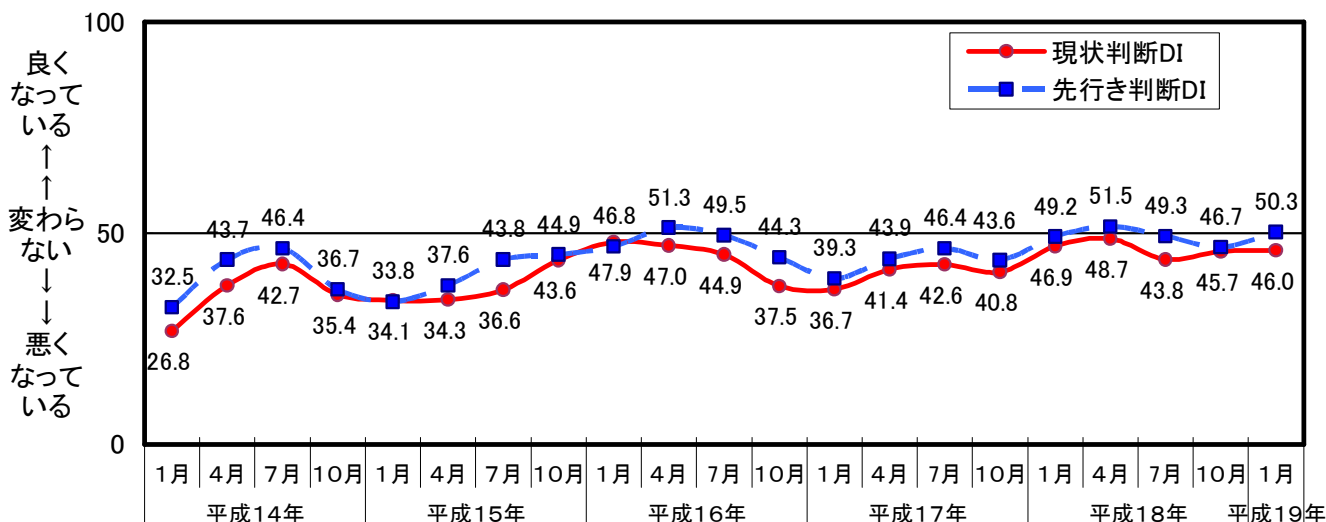
平成19年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月4日～1月18日を調査期間とし、回答率99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは46.0で、前期調査を0.3ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは50.3で、前期調査を3.6ポイント上回った。

1月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIがともに上昇し、先行き判断DIは3期ぶりに横ばいを示す50を上回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「悪くなっている」が4.1ポイント減少したことにより、全体では0.3ポイント増の46.0となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由をみると、一部で売上高の回復傾向から景気が上向いていると感じるという声がある一方、暖冬少雪による冬物商戦の不振の影響をあげる声が多く見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、下北地区においてポイントが増加したが、津軽、県南地区ではポイントが減少し、東青、津軽、県南の3地区において横ばいを示す50を下回っている。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が12.6ポイント増加したことにより、全体では3.6ポイント増の50.3となり、3期ぶりに横ばいを示す50を上回った。</p> <p>判断理由を見ると、初売りが好調だったことから景気回復の兆しが見えてきているという声や、新しいパソコンの基本ソフト(OS)発売による需要に期待する声がある一方、景気が上向く材料が見当たらないため変わらないという声が多く見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、津軽、下北地区においてポイントが増加したが、県南地区においてはポイントが減少した。津軽地区53.3、県南地区50.8、下北地区55.0と、3地区において、横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 景気が上向きであることは、売上高の回復傾向からは感じる。しかし、回復傾向であるが前年を上回る実績は残せていない。(百貨店=東青)
- 人を募集しても、急に集めるのが難しくなった。他県からの募集も増えているとの業者の話があった。さらに、中京地区の取引先から、ついに東北地方への進出や工場増設の話が現実味をもって語られるようになってきている。(電気機械製造=県南)
- 12~1月の時期、暖冬少雪でファッション・身の回り品の冬物商戦がふるわなかった。年明けはバーゲンセール突入で利益率の低下は避けられず、2月は消費減退シーズンなので、総じて厳しい模様。(商店街=東青)
- お客様の来店頻度が減りつつあるし客単価も下がりつつある。(一般飲食店=県南)
- お客様の買い控えの傾向は変わっていないと思われます。ただ、お歳暮の購入内容について変化が見られます。全国的な流れかもしれませんが、買上金額、個数は減っていますが、1個あたりの金額は高くなってきております。(一般小売店=下北)
- 地元企業からの求人賃金は相変わらず低めに推移。(人材派遣=津軽)
- △富裕層のお客様も増えてはいるが、それ以外のお客様もそれ以上増えている。(乗用車販売=県南)
- △建設業、漁業が良くない。少雪から冬物商戦が期待外れ。民間ボーナスの不振。(経営コンサルタント=東青)
- ×忘新年会とも昨年と比較にならないほど減少し、また雪不足のためスキー客のキャンセルが多かった。(観光型ホテル・旅館=津軽)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 初売り、福袋が好調により、景気回復の兆しが見えてきている。特にブランド福袋は長蛇の列。1月1日は1,200名程並ぶ。(百貨店=津軽)
- パソコン新OS発売に加えて、地上デジタル放送が間近に控えている等。(家電量販店=県南)
- やや期待感はあるが、県内景気の現況より上向き好材料はない(今のところはみられない)。(都市型ホテル=東青)
- 基本的ベースアップ等がなく、パート扱いの者も多いため、レジャーに使う費用も限られているようだ。(パチンコ=津軽)
- 正月が終わると、みんなサイフのひもを締めるので、売上は横ばい状態。(観光名所等=県南)
- 変動要素がみあたらない。(スーパー=下北)
- 今のところ積雪が少なく、このまま暖冬で終わるのであれば、高騰した灯油代の負担と相殺されるとの期待を込めて。(食料品製造=東青)
- △関東周辺が販売主体ですが、競争が激しいわりに荷動きも悪く、今後もよくなるような動きが見えない。今より悪くなるように思う。(食料品製造=県南)
- ×賃上げが望まれず、日々の生活に関わる経費(年金保険料)等の支払増、消費税のアップなど先行き不安材料のみある。プラスマイナスしてマイナスの計算しかできない現状下にある。(タクシー=東青)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」